

安田火災記念財団 News

平成13年4月

●発行者：財団法人安田火災記念財団 〒160-8338 東京都新宿区西新宿 1-26-1

TEL03-3349-3130 FAX03-3349-3133 <http://www.yasuda.co.jp/foundation/> E-Mail:fvpg3340@mb.infoweb.ne.jp

「第2回安田火災記念財団賞贈呈式」を開催

わが国における社会福祉の優れた学術文献を表彰する「第2回安田火災記念財団賞贈呈式」を、3月23日安田火災本社ビル43階で開催しました。出席者は、学会関係者・マスコミ・当財団役員等の約90名、厚生労働大臣からの祝辞を頂戴し盛大な贈呈式となりました。

受賞文献（著書1件、論文2件）は、1月8日の最終審査会（審査委員長、三浦文夫日本地域福祉学会会長）での慎重な審査を経て、2月7日開催の臨時理事会で決定しました。

この賞は、これから社会福祉に関する学術研究に携わる中堅・若手の研究者が、等しく目標とする賞として当財団が最も重視している事業であり、今回の3名の受賞者は、いずれも今後の活躍が大いに期待される逸材です。



左から 受賞者・北場 勉氏 池本美和子氏、平岡公一氏



厚生労働省・森山課長



当財団有吉理事長



三浦審査委員長

<受賞文献>

1. 著書部門賞（賞状、記念品、副賞：研究出版助成100万円）
『日本における社会事業の形成』（法律文化社出版、平成11年）
日本福祉大学社会福祉学部助教授 社会学博士 池本美和子 様
2. 論文部門賞（賞状、記念品、副賞：研究助成30万円）
『社会福祉法人制度の成立とその今日的意義』（季刊社会保障研究、平成11年）
日本社会事業大学社会福祉学部助教授 北場 勉 様
『社会サービスの多元化と市場化』（『福祉国家への視座』所収、平成12年）
お茶の水女子大学文教育学部 教授 平岡公一 様

平成13年度 事業計画・収支予算 決まる

3月23日開催の理事会・評議員会において、総額1億3千万円の事業計画および収支予算が承認されました。

新年度は、はば前年度の事業内容と同じで、NPO法人設立資金助成と安田火災記念財団賞に重点をおいて、事業の円滑な運営を図ります。

主な事業内容は次のとおりです。



1. 社会福祉事業

(1) NPO法人設立資金助成（3,000万円）

障害者・高齢者福祉の活動を行う団体で、平成13年度中にNPO法人の設立認証申請を行うものに対し、1件当たり30万円総額3,000万円を助成する。

(2) 自動車購入費助成（1,000万円）

西日本地区のNPO法人等の法人化を目指す福祉団体を中心に助成する。

(3) 会議会合・国際交流費助成（500万円）

2. 福祉諸科学事業

(1) 研究助成（200万円）

(2) 研究会（講演会と併せて700万円）

① 米国保険法研究会 * 6月末を目処にコンメンタールを発刊し終了する予定 *

② 消費者契約法と規制緩和研究会

③ 金融・保険分野の競争制作研究会

④ 欧州ヘルスケアビジネス及びディージェーズマネジメント研究会

（主査：田中 滋 慶応大学教授）

* 新規発足 *

(3) 講演会（研究会と併せて700万円）

情報化時代における社会福祉をテーマとしたシンポジウムを開催する予定

(4) 財団叢書等の発行

『保険業法コンメンタール合本版』の作成、

『NPO法人運営の手引き』の作成を予定

3. 安田火災記念財団賞（800万円）

(1) 賞 著書部門 原則1件（賞状、記念品、副賞：研究出版助成100万円）

論文部門 原則3件以内（賞状、記念品、副賞：研究助成30万円）

(2) 対象者 将来性が期待できる中堅・若手の研究者

(3) 対象文献 平成12年度中に、社会福祉に関する国内で発表された学術的に優れた著書・論文で 指定推薦者の推薦を受けた文献

平成13年度収支予算 (平成13年4月1日～平成14年3月31日)

(単位：円)

科 目			本年度 予算額	前年度 予算額	増 減	備 考
大 科 目	中 科 目	小 科 目				
I. 収入の部						
1. 基本財産運用収入			13,000,000	12,000,000	1,000,000	
2. 寄付金収入			97,000,000	93,000,000	4,000,000	寄付金見込増
3. 雑収入	受取利息		400,000	200,000	200,000	
4. 基本財産収入			20,000,000	20,000,000		
当期収入合計(A)			130,400,000	125,200,000	5,200,000	
前期繰越収支差額			45,454,128	16,872,691	28,581,437	(注)
収入合計(B)			175,854,128	142,072,691	33,781,437	
II. 支出の部						
1. 事業費	社会福祉事業	助成金	45,000,000	45,000,000		
		諸費用	3,000,000	3,000,000		
	(小計)		48,000,000	48,000,000		
	福祉諸科学事業費	助成金	2,000,000	2,000,000		
		諸謝金	7,000,000	7,000,000		
		刊行物関係	6,000,000	2,000,000	4,000,000	保険業法叢書の
		諸費用	5,000,000	4,000,000	1,000,000	合本発刊
	(小計)		20,000,000	15,000,000	5,000,000	
	文献表彰事業費		8,000,000	8,000,000		
	(小計)		8,000,000	8,000,000		
	(事業費計)		76,000,000	71,000,000	5,000,000	
2. 管理費	人件費	給与等	18,000,000	18,000,000		
	物件費	会合費	2,000,000	2,200,000	△200,000	
		旅費交通費	200,000	200,000		
		通信費	500,000	500,000		
		消耗品費	300,000	300,000		
		図書費	200,000	200,000		
		備品費	300,000	300,000		
		資産管理費	600,000	500,000	100,000	
		印刷製本費	200,000	200,000		
		光熱費	200,000	200,000		
		賃貸料	500,000	500,000		
		調査費	100,000	100,000		
		諸会費	500,000	500,000		
		雑費	2,300,000	2,300,000		
		業務委託費	300,000	0	300,000	
	(小計)		8,200,000	8,000,000	200,000	
	(管理費計)		26,200,000	26,000,000	200,000	
3. 固定資産取得支出	投資有価証券購入支出		20,000,000	20,000,000		
	什器備品購入支出		0	0		
4. 特定預金支出	金銭信託預入支出		0	0		
	退職給与引当預金支出		70,000	100,000	△30,000	
5. 予備費			10,000,000	10,000,000		
当期支出合計(C)			132,270,000	127,100,000	5,170,000	
当期収支差額(A-C)			△1,870,000	△1,900,000	30,000	
次期繰越収支差額(B-C)			43,584,128	14,972,691	28,611,437	

(注)前期繰越収支差額は、前年度収支予算の繰越収支差額から前年度収支計算書(収支決算)の繰越収支差額に変更した。

財団法人安田火災記念財団 役員・評議員・選考委員・顧問一覧

平成13年3月31日付役員の任期満了により、次のとおり改選がなされました。

(平成13年4月1日から任期2年)

1. 理事

有吉孝一 (理事長/安田火災海上保険株式会社相談役)
鴻 常夫 (法学博士・東京大学名誉教授)
金田一郎 (財団法人日本社会福祉弘済会理事長)
後藤康男 (安田火災海上保険株式会社名誉会長)
田中 皓 (専任/安田火災海上保険株式会社理事)
戸澤政方 (元衆議院議員)
西嶋梅治 (法学博士・法政大学名誉教授)
森島昭夫 (財団法人地球環境戦略研究機関理事長)
和田正江 (主婦連合会会長)

2. 監事

斎藤昭一 (公認会計士・監査法人太田昭和センチュリー代表社員)
望月 純 (安田火災海上保険株式会社経理部長)

3. 評議員

石井寿人 (元日本地震再保険株式会社常務取締役)
石田 満 (法学博士・白鷗大学教授)
梅田立央 (安田火災海上保険株式会社専務取締役)
江頭憲治郎 (法学博士・東京大学教授)
大島雄次 (安田生命保険相互会社取締役会長)
大橋宗夫 (株式会社安田総合研究所代表取締役理事長)
落合誠一 (東京大学教授)
木南隆彦 (株式会社安田信託銀行取締役相談役)
金澤 理 (法学博士・創価大学教授)
上村 一 (社会福祉法人恩賜財団母子愛育会会長)
川井 健 (法学博士・帝京大学教授)
倉澤康一郎 (法学博士・武蔵工業大学教授)
笹本國彦 (安田火災海上保険株式会社特別顧問)
杉崎盛一郎 (安田健康保険組合顧問)
鈴木治雄 (昭和電工株式会社最高顧問)
並河尚典 (前株式会社サンビルメンテナンス社長)
西崎哲郎 (KPMGフィナンシャル理事長)
庭田範秋 (経済学博士・商学博士・慶應義塾大学名誉教授)
端田泰三 (株式会社富士銀行顧問)
福井光寿 (前社団法人東京都医師会会長)

三浦文夫（日本地域福祉学会会長）

三好次夫（ユニバース開発株式会社代表取締役社長）

4. 選考委員

<社会福祉事業>

板山賢治（社会福祉法人浴風会理事長）

大久保英明（安田火災海上保険労働組合執行委員長）

竹中浩治（財団法人ヒューマンサイエンス振興財団理事長）

松尾武昌（社会福祉法人全国社会福祉協議会常務理事）

松岡星郎（安田火災海上保険株式会社総務部長）

山崎美貴子（明治学院大学副学長・東京ボランティア・市民活動センター所長）

<福祉諸科学事業>

京極高宜（日本社会事業大学学長）

佐藤正敏（安田火災海上保険株式会社取締役社長室長）

高橋紘士（立教大学教授）

田林巖樹（安田火災海上保険株式会社特別顧問）

広井良典（千葉大学助教授）

山下友信（東京大学教授）

<社会福祉学術文献表彰事業>【安田火災記念財団賞審査委員】 ★は新任者

★ 大橋謙策（日本社会事業大学教授・日本社会福祉学会会長）

大橋宗夫（財団評議員、株式会社安田総合研究所代表取締役理事長）

岡本民夫（同志社大学教授）

★ 竹内孝仁（医学博士・日本医科大学教授）

★ 古川孝順（東洋大学教授）

三浦文夫（財団評議員、日本地域福祉学会会長）

5. 顧問

今村 譲（社会福祉法人同愛記念病院財団顧問）

★ 右田紀久恵（広島国際大学副学長）

岡 登（元安田火災ひまわり生命保険株式会社副会長）

岡本 宏（元安田火災海上保険株式会社副会長）

★ 河嶋孝次（元五洋建設株式会社監査役）

須田 晁（愛知学泉大学）

★ 園田恭一（東洋大学教授）

★ 田端光美（元日本女子大学教授）

★ 西江博俊（社団法人日本産業退職者協会常務理事）

堀内生太郎（前安田火災記念財団専務理事）

野崎辰男（元安田火災海上保険株式会社取締役副社長）

平成12年度社会福祉(自動車購入費)助成先の決定

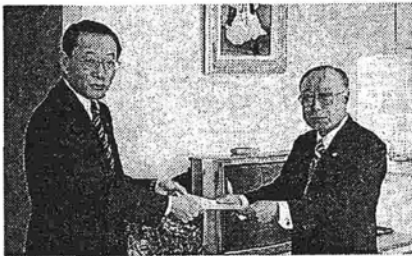
東日本地区(北海道・東北・関東甲信越・静岡県)の障害者福祉活動団体に対し、自動車購入費助成を実施しました。

平成12年度は、94件の応募があり、1月30日開催の選考委員会で慎重に審査を行った結果、次の10件(1件当たり100万円、総額1,000万円)に決定しました。

1. ワークスペース前田の家(北海道岩内郡)
2. 釜石市福祉作業所(岩手県釜石市)
3. ソキウス仙台(宮城県仙台市)
4. 東和町手をつなぐ家族会(福島県安達郡)
5. あしお障害者共同作業所「ほっとみるく」(栃木県上都賀郡)
6. NPO法人 介助派遣システム(埼玉県浦和市)
7. NPO法人 NPO研修・情報センター(東京都国分寺市)
8. Cスクエアあじさい(東京都町田市)
9. 地域作業所 浜風(神奈川県横浜市)
10. NPO法人 ゆいまーる福祉会(長野県伊那市)

贈呈式は、助成先の最寄りである安田火災の支店長に、当財団有吉理事長の代理で主催して頂いています。マスコミに掲載された新聞記事(3月29日現在)をご紹介します。

1. 3月7日付 神奈川新聞 (横浜支店主催・助成先：地域作業所 浜風)



この日は、安田火災記念財団理事長代理者として渡

同財団は毎年、社会福祉助成金を福祉施設などに贈っており、今年で二十三回目。これまでに八億六千万円に達した。

安田火災記念財団(有吉孝一理事長)は六日、横浜市保土ヶ谷区の地域作業所浜風(今井好雄運営委員長)に百万円の助成金を贈った。写真。

地域作業所に
100万円を助成
安田火災記念財団

2. 3月16日付 河北新聞
(仙台支店主催・
助成先：ソキウス仙台)

ソキウスせんだいに
自動車購入費100万円
安田火災財団が助成
安田火災記念財団は本年
度の社会福祉助成として精
神障害者の自立支援活動を行
う市民活動団体「ソキウス
せんだい」(仙台市)に
活動用の自動車購入費百万
円を先日贈った。
ソキウスせんだいは仙台
市内で精神障害者グループ
ホーム(入居者四人)と小
規模作業所(通所者十二
人)を運営し、第2ル
ブホーム(五人)を四月一
日に開設する。

辺正作安田火災海上保険横
浜支店長が同作業所を訪
れ、今井委員長に「自動車
購入資金として役立ててほ
しい」と手渡した。今井委
員長からは「開所まもなく
資金的に苦しい中、大変お
りがたい」と感謝していた。
また同財団は、二〇〇〇
年度NPO(特定非営利活
動法人)設立助成として百
件、三千万円の助成を行っ
た。

安田火災記念財団 釜石市福祉作業所に100万円 助成金は車の購入に活用

財団法人・安田火災記念財団(理事長＝有吉孝一・安田火災海上保険相談役)は十二日、釜石市千鳥町にある釜石市福祉作業所(近江健一所長)に対し、十二年度の社会福祉活動助成金として百万円を贈呈した。同作業所はこの助成金で車を購入、作業所で製造した製品などの運搬に活用することになっている。

同記念財団は昭和五十一年、安田火災海上保険の社会貢献活動の一環として設立された。基本財産は八億七千万円。社会福祉助成は設立以来二十三回目で、助成金額の累計は八億六千万円。

(安田火災記念財団の助成金で購入した車。左から釜石市福祉作業所の近江所長、安田火災海上保険の村山岩手支店長)



円にのぼる。本県関係では千五十万円を助成している。これまでに、十三件に對する。

十年度からはNPO(特定非営利活動法人)の設立支援に重点を置いて助成しており、本年度は百件に對して三千万円を贈呈。さらに活動援助を目的に、一千万円の助成を追加実施することになった。

今回の助成に對しては全国から九十四件もの応募があり、この中から活動実績などが高く評価された十件を對象に助成金を贈ることになった。東北ではわずか三件で、県内では釜石市福祉作業所だけが對象となった。

安田火災海上保険釜石支社(浅野雄二支社長)で行われた贈呈式では、同社の村山和久岩手支店長が「先駆的な役割を期待して助成することになった。社会福祉の向上のため有効に活用してほしい」とあいさつし、近江所長に助成金を手渡した。近江所長は「作業所ではがらばっている入所者の希望がふくむ贈り物だ。一生懸命使わせてもらいます」と感謝の言葉を述べた。

釜石市身体障害者協議会(長谷川忠久会長)が運営する同作業所は昭和六十二年に開設され、現在、市内の身体、知的、精神の各障害者など二十二人が通所。空気圧機器メーカーの部品を下請けで製造しているほか、水産物の加工なども行っている。

助成金を活用して購入したのはワゴンタイプの軽乗用車で、製品の運搬のほか入所者の送迎などにフル活用することになっている。

(栃木支店主催・助成先：あしお障害者共同作業所「ほっとみるく」)

障害者作業所に 100万円を助成

【足尾】安田火災記念財団(理事長・有吉孝一・安田火災海上保険相談役)はこのほど、町の障害者共同作業所「ほっとみるく」(佐々木章所長)に、自動車購入資金として百万円を贈った。

同財団は今回、福祉活動などで自動車を必要とする団体を募集。全国から二百件を超える応募があり、選定の結果、十団体に計一千万円を助成することになった。

「ほっとみるく」は個人の乗用車で通所者の送迎しており、佐々木所長は「大変ありがたい。早速ワゴン車を購入し、さまざまな活動に活用したい」と喜んでいました。



助成金の目録を受け取る佐々木所長(右)

寄付金の御礼

- 次の方々から寄付をいただきました。ありがとうございました。(寄付日順)

宮澤和人様、(株) エアー・ハイテク・センター様、安田火災損害調査(株)様、
安田火災長寿ライフサポート(株)様、安田火災ローンサービス(株)様、
安田火災グローバル投信投資顧問(株)様、(株)安田火災インフォメーションテクノロジー様、
安田火災システム開発(株)様、安田リスクエンジニアリング(株)様、(株)安田総合研究所様、
安田ビル管理(株)様、安田火災カード(株)様、(株)ユニサン様、
安田ビジネスサービス(株)様、(株)インシュアランスマネジメントサービス様、(株)安田代理店友の会様、
(株)安田火災研修企画様、長田克彦様、(株)サン総合企画様、(株)キャリアビューロー様、
安田企業投資顧問様、平成総合サービス(株)様、オトビジネスサービス(株)様、
安田火災ひまわり生命(株)様、安田マリンサービス(株)様、加藤博之様、奥和義様

事務局だより

- 著書紹介

『小倉昌男の福祉革命－障害者「月給1万円」からの脱出－』

(建野友保著、小学館文庫、560円)

3月23日の「安田火災記念財団賞祝賀パーティー」で、ヤマト福祉財団の小倉理事長のお話に感動したとの声が多く寄せられました。

ヤマト運輸をトップ企業に押し上げた小倉昌男氏が、会長を退いた後、福祉の世界に飛び込んで、障害者の給与が「平均1万円に満たない」ことが「仕方がない」で済まされている現状に憤慨し、福祉の現場で働く人々に「経営」の発想を啓蒙し、障害者が働く喜びと真に自立するための場として、焼きたてパン屋チェーン「スワンペーカーリー」を展開されてきた様子をご紹介されました。また、現在はパンに次ぐ「炭焼き」を障害者の仕事に取り入れようと行動されていることも紹介されました。

障害者福祉に情熱を持って、自ら企画・実践されている小倉氏だからこそ、そのお話は説得力があり、聞くものに感動を与えるのだと思います。当日のパーティーにご出席いただけなかった方々に、小倉氏の福祉の世界における活躍の様子が紹介された掲記著書をご紹介します。是非ご一読いただければ幸いです。

「スワンペーカーリー」で働く障害者の給与は10万円で、作業所の平均給与の10倍に当たります。当事者の親御さんからは、「娘が笑うようになった。日曜日ごとにお稽古に通うようになった」と大変喜ばれているそうです。(本文中より)

これは、障害者に働く喜びを与えた一例ですが、そのほか感動に値する実話がたくさん盛り込まれています。

- 新年度を迎え、事務局一同新たな気持ちで業務遂行に取り組む所存ですので、本年度も何卒よろしくお願ひ申し上げます。

